

日刊

# 産業新聞

Japan Metal Bulletin

特殊銅合金メーカーの大和合金（本社：東京都板橋区、萩野源次郎社長）は、現場ごとに個人の残業時間を把握しやすくするモニターの設置を進める。部署ごとに負担が偏らないよう意識し、有給休暇も取りやすくするのが狙いだ。2020年1月からは完全週休2日制を導入し年間休日数を増やすほか、産業医による社内の巡回なども始めており、従業員の健康を重視した働き方改革に本腰を入れ

## 残業モニターで仕事見える化



同社の三芳工場（埼玉県入間郡三芳町）とグループ会社の三芳合金工業の本社工場（同）および朝霞工場（埼玉県新座市）で、作業現

残業時間を  
生産実績に  
確認できる  
モニターで

作業現場で、  
確認できる  
モニターで

## 大和合金、働き方改革に本腰

場へのモニター設置を始めた。各従業員の当月の累積残業時間が毎日更新されるようになってきている。また部門の生産高と目標の差、荷物を持ち上げる際の安全な姿勢なども確認できる。

設置の狙いは、残業時間を月間42時間までに抑えることだ。残業や実績のデータをタイムリーに確認できるようになれば、特定の従業員に負担が集中しないよう部署内で調整できるようになり、有給

休暇の取得予定も立てやすくなる。

さらに、年間休日数を増やすため就業時間も変更する。現在は午前8時から午後4時半までだが、来年1月以降は終業時間を5時に延長して昼休みを45分から1時間に延長。その上で土曜出勤数を減らす。

このほか、産業医による毎月の巡回や社員との面談を始めた。産業医には社内の安全衛生委員会にも参加してもらっている。